

April  
2013

# Kalimpong Times



みなさん、こんにちは！！カリポンタイムズ4月号です。カリポンでは雨季がすでに始まったかのように毎日雨が降り、農作業もなかなかかどらない歯がゆい日々が続いています。今月初旬に開始した今シーズンの日本米栽培に向けた種籾選別作業を終え、農家の方々への分配もほぼ完了しました。今シーズンの収穫量は、昨シーズンの倍以上となる5tを目標に、現地農家の方々と協力して全力栽培をしていきます！今月号では、種籾選別作業とファーマーズフェアの準備の様子、そして村での巡回指導の様子をお届けします。

昨シーズン使用した日本米の種籾は約100kgで、15戸の農家による合計収穫量は2tでした。今シーズンは、約300kgの種籾を使用し、最低でも5tの収穫量を目標にしています。毎年、日本米栽培に挑戦したいという農家が増え、今シーズンは約30戸の農家が日本米栽培に挑みます。そのうち、7戸の農家は以前、栽培を経験しているので、日本米栽培において重要な水の管理や鳥害対策等はすでに頭の中に入っています。

4月初旬から事務所敷地内で現地スタッフと種籾選別作業を開始しました。日本の伝統的な種籾選別法である、塩水選と温湯消毒をここカリポンでも採用しています。塩水選を行う前に、まず普通の水に種籾を入れ、空籾やごみを取り除きます。



写真① 塩水に種籾を入れている様子  
(写真中央：稲垣農業指導員)

その後、水に沈んだ種籾を20リットルの水と4kgの塩を混ぜた塩水に入れ、数分待ちます。浮いた籾を網ですく、しっかりと水洗いした後は、網袋に入れ、60℃のお湯に10分間浸します。いもち病などの病原菌を殺菌し、病気にかかりにくい苗を作るための重要な作業です。



写真② 60℃のお湯で消毒している様子  
うに一袋4kg程度にしています。

袋を鍋に入れてからも数回温度を測り、60℃になっていることを確かめます。袋の中の全ての種籾に60℃のお湯が行き渡るよ



写真③ 消毒を終えた種籾を乾燥させている様子  
乾燥させるのに時間がかかりました

10分間温湯に浸した後はよく水を切り、シートの上で乾燥させます。4月のカリポンは本当に天候が悪く、朝晴れていても、昼から急に曇りだし、雨が降る日が多く、乾



写真④ 日本米栽培についての説明をするスラジ現地業務補助員(写真右)

稲垣農業指導員の下、現地スタッフが手際よく作業を行ったお陰で、約340kgの種籾選別作業を終えることができました。25日に開催した日本米栽培研修では、22名の

農家が参加し、田の土作りから収穫までの一連の栽培法、そして鳥害対策等を学びました。カリポンでの新たな換金作物である日本米は、地元の多くの農家が関心を持ち、いずれはカリポンの特産物になるかもしれません。一方、インドで働かれる日本人の方々も増加し、日本米の需要も高まっています。“1人でも多くの日本人の方に、1kgでも多くの日本米をお届けする”をモットーに、カリポンの農家が日本米栽培に取り組んでいます。



写真⑤ 農家に配った種籾の一部(各袋5kg)

5月2日に開催するコーポラティブ組織主催の JICA KRISHI UTSAV 2013 (ファーマーズフェア 2013) の会議に30名の農家が参加し、ブースの設置や当日の内容等について確認を行いました。会議後には、ポスター



写真⑥ フェアについて説明するコーポラティブ組織プラディーブ副理事長

を配布し、村や町で人目がつく場所に張るように呼びかけました。昨年以上の盛況となるように、コーポラティブ組織メンバー1人1人がモチベーションを上げています。会場準備初日の朝はあいにくの雨でしたが、すぐに止み、昼前には20名以上のメンバーが集まりました。事務所近くの竹藪から約60本の竹を車で会場まで運び、ブースの設置を行いました。カリンポンの人達は皆、「ククリ」という伝統的なナイフを使って竹を切ります。村では、結婚式などのイベントで竹を用いて屋根や仕切りを作るので、このような会場作りはお手の物です。



写真⑦ 竹を用いてブースを設置する様子

こうしたイベントを通じた他の村の人達との交流は、コーポラティブ組織のメンバー間の結束を強化する素晴らしい機会です。



写真⑧ 昼食の準備を終えた女性陣

なります。今年は雨が心配ですが、参加者の思いがきっと届き、天候に恵まれた JICA KRISHI UTSAV になるはずですよ!!

を配布し、村や町で人目がつく場所に張るように呼びかけました。昨年以上の盛況となるように、コーポラティブ組織メンバー1人1人がモチベーションを上げて

会場設置準備には、女性も参加し、村から持参した野菜を用いて、準備に来てくれた人達に対して、おいしい料理を振る舞いました。

こうしたイベントを通じた他の村の人達との交流は、コーポラティブ組織のメンバー間の結束を強化する素晴らしい機会です。

さらに、当日は政府農業機関や NGO など、カリンポンで農業に携わる団体も参加するため、JCK にとって関係構築・強化のための良い機会と

Munsong 村の研修修了生から竹製ビニールハウスの設置指導の要請があり、現地スタッフと共に、村を訪問しました。村に辿り着くまで、山を切り開いたばかりの砂利道を約1時間進み、ようやく到着です。



写真⑨ Munsong 村までの砂利道

朝4時に耕したという場所で早速ハウス設置のための測定を行いました。長さは約10m、幅は約5m、高さが約3mです。



写真⑩ ハウスの骨組みを作る様子

測定後は竹を伐り出し、設置を開始しました。やはりここでも、ククリを用いて竹を切り、割る作業を行っていました。カリンポンの人達にと

って、ククリは必須のツールです。今回は時間がなく、途中、雨が降り出したため、設置手順を指導後、村を後にしました。後日村を再訪し、チェックを行う予定です。

村の視察は移動が大変ですが、農家の方々のフィールドと一緒に作業を行ったり、甘いお茶を飲みながら意見交換をする時間は大変有意義です。今後も、村の人達との密な関係を大事にしていきたいです。

来月号では、ファーマーズフェア



の様子をお届けします。お楽しみに! 写真⑪ ククリ

JCK (JICA Project Cooperative Society of Kalimpong)

生産物在庫状況 (4月30日現在)

- 有機栽培日本米/普通栽培日本米：完売しました!
- 味噌：7kg
- 生姜菓子：10袋 (1袋 100g)

カリンポンや JCK のこういった情報を掲載してほしい! などご意見・ご要望がありましたら、以下の連絡先までご連絡よろしくお願いします。

花田博之(JICA 地域園芸振興プロジェクト現地調整員)  
携帯電話：(0)8158043485

Email (花田)：[rhppkalimpong@gmail.com](mailto:rhppkalimpong@gmail.com)

Email (現地スタッフ Mr. Prabir S. Rajwar)：

[yamaflora@sify.com](mailto:yamaflora@sify.com)